

# 学生による学びの報告～その1



立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科

教育懇談会資料



3年生 若林 遥さん

Wakabayashi Haruka

## 自己紹介！

1年次：基礎演習～ 空閑（くが）ゼミ  
2年次：フィールドスタディ～ 権（ごん）ゼミで、廃校と  
空き家活用を通じたコミュニティ形成を学ぶ！  
3年次：コミュニティスタディ～ 権ゼミで、公共空間のリ  
ノベーションを学ぶ！  
サークル：JG、Eddy

## 2年ゼミのフィールドスタディ

～学外調査もあり、見聞を広める！～

1年ゼミの基礎演習とは違い、2年からは自分の関心に応じてゼミを選んで専門的に学んでいきますが、私は廃校活用を学ぶ権先生のゼミに入りました。コミュニティ政策学科（以下「コミ政」）のゼミの魅力は2つあります。1つ目は、自分が本当に興味のあることを学べる点です。特に勉強になったことは廃校活用事例の調査です。百聞は一見に如かずと言う通り、その日から廃校活用に魅了され、さらに学びを深めたいと感じるようになりました。2つ目は、少人数という点です。大学の講義は大人数で受けることがほとんどです。しかしゼミは10数名で、少人数だからこそ議論も盛り上がり、たくさんの知識や様々なアイデアを共有することができています！



工房になった廃校もある

## ——より具体的には？

コミュニティの課題を知り、廃校活用事例を学んだ上で、新しい廃校活用のアイデアをグループに分かれて出し合い、発表するという行っていました。大学の授業では学生同士で議論したり、人に伝えるために発表したりする機会は多くありません。コミ政では、それをゼミで2年生から経験できる点が凄く魅力的だと感じます。

ゼミでは、学問を学んでいるだけではありません。権先生は「縦のつながり」を大切にされていて、例えば夏の合宿は2,3,4年生合同で行います。同じ学科の先輩とつながることができ、貴重なお話が聞けました。フィールドスタディは、一週間で一番楽しみにしていた授業でした。興味のあることについて、同じ志を持った仲間と学び合うことは、とても面白いことだと改めて感じることができました。

## 3年ゼミのコミュニティスタディ

～学びをさらに深める！～

2年のゼミと異なるのは学びの質です。2年では主に廃校活用について学んでいましたが、自主的な学びというよりは知識をインプットするための学びという意味が強かったと感じます。



過去のゼミでは、  
宿舎になった廃校で合宿！

それに対して3年では、学習内容もさらに深く、具体的になっていき、主体的に学ぶことが増えていきます。2年生で学んだことをアウトプットすることができるという実感があります。例えば2年では廃校活用に限定されていた研究対象が、水辺や図書館、公園など様々な公共空間のリノベーションへと広がります。身近なテーマであると同時に、2年次の学びや知識を応用するので、より実践的であると感じています！

## ——他に3年生になっての変化は？

3年から権ゼミに加わったメンバーもいますし、フィールドスタディには後輩の2年生が仲間として入ってくれました。学年間の「縦のつながり」を引きついでいくのは、3年生の役目であると感じます。去年私たちがゼミの「いろは」を知らなかったとき、先輩の雰囲気がとても良く、私たちを和ませて下さったこと思い出します。今年は私たち3年生が、楽しく、しっかりとゼミで学べる雰囲気を作っていきたいと強く感じています！



2,3,4年合同合宿@山中湖で、山梨名物「ほうとう」づくり  
地域の方から学んでチャレンジ！  
右側白い服が、若林さん





## 3年生 若林 遥さん Wakabayashi Haruka

### コミ政の学びの広がり

#### ～サークル活動で海外へ！～

私は、2つのサークルに入っています。1つは、ダンスサークルの「JG」です。高校時代から踊ることが大好きだった私は、他のサークルには見向きもせずダンスサークルに入りました。しかし、1年生の冬にサークルの友達が海外で家を建てるボランティア活動をしていることを、SNSを通じて知りました。ダンスだけで充実していると思っていた私は、そこで活躍している友達を見て衝撃を受けました。そして気づいたら、「Eddy」というボランティアサークルに入っていました！

#### ——生かされるコミ政の学び！

Eddyに入った理由には、先程述べた理由の他に、「もしかすると、自分はコミ政での学びを生かし切れていないのでは…」と感じていたからです。授業でボランティアや世界の貧困、社会問題について学んでいるのに、それについて全く実践しようとしていない自分がいました。当時は自分のためにだけにダンスをしたり、アルバイトをしたりしていましたが、その学びを少しでも誰かのために実践したいと思ったのです！



フィリピンのパコロド  
ボランティア活動で家を建てました！

コミ政での学びがなければ、お金を貯めて海外に飛び出し、他人のために家を建てようなんて、夢にも思わなかったと感じています。思い切ってこの活動を試みることで、多くの貴重な経験を得ることができました。改めて自分の人生を見つめ直したり、仲間との共同・協働としてのチームビルディングの重要性も学ぶことができました。まさにコミュニティの学びと実践です。このサークルに出会うきっかけを得ることができたコミ政での学びに感謝していますし、その学びは面白いだけでなく、意義あることだと改めて感じることができます。コミ政は、そんな魅力的な居場所です！



権ぜみの調査の様子

### 学生から見たコミ政の学び！

身近な社会問題にかかわる幅広い知識を身に着けることができるという特徴があり、それが魅力的です。抽象的・概念的なことや、専門特化した内容を学ぶ色彩が強い学部学科も多い中、コミ政では様々な問題を、コミュニティという観点から広い視野で勉強することができます。これは他大学にも他学部にもない、コミ政だからこそその学びであると感じます。

座学だけでなく、問題の解決策を考え、さらには自分の意見を持つことができる点も魅力の1つだと感じます。問題を客観視するだけでなく、言わば「自分事」として考える習慣ができている、このサイクルは誰もが生きやすい社会を実現する道を考えること、実現することにつながっているように感じます！

### 最後にメッセージを！

学生が大学でどんなことを学んでいるのか、わかりにくいこともあるかもしれません。ですが、学生はそれぞれ自分なりの目標を持ち、楽しさも感じながら日々学びを深めています。

学生生活においても将来においても、コミ政で学んだことは必ずどこかで生きると思っています。コミ政から社会へと羽ばたいていく私たちを見守って下されば幸いです！



ゼミ合宿で  
グループディスカッション！

# 学生による学びの報告～その2



立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科

教育懇談会資料



3年生 加藤 颯さん Kato Sou

## 自己紹介！

1年次：基礎演習～木下ゼミ

2年次：フィールドスタディ～原田ゼミで、地方行政・地域活性化を学ぶ！

3年次：コミュニティスタディ～権ゼミで、公共空間のリノベーションを学ぶ！

学外活動名：教育系活動団体EGGS(イーグス) 共同代表

## 2年ゼミのフィールドスタディ

### ～他大との合同ゼミや夏合宿で充実！～

2年次のフィールドスタディは原田先生の下で、地域行政について学びました。春学期はテキストの輪読を行い、地域活性化の基礎知識を習得しました。また、夏休みの合宿で視察に行く地域についてゼミで話し合い、高知県や北海道内の複数の地域の中から北海道下川町に決定し、大学で事前調査を行いました。そして、ゼミ合宿の本番では、北海道下川町の持続可能な地域づくりの取り組みを視察して、生産から加工、販売までを一貫して行う6次産業の現状や、自然と人間のかかわりの中で行われるまちづくりについて知見を深めました。

秋学期には、同じコミュニティ政策学科（以下「コミ政」）の藤井先生のゼミ、さらには明治大学のゼミとの合同発表会を行いました。その準備をするために、普段の授業だけでなく、夜遅くまで大学に残って資料の整理や発表の練習をしました。

### ——視点の変化！

フィールドスタディでの1年間を通して、特に6次産業への考え方が大きく変わったと思います。当初、6次産業は、生産者が付加価値をつけて利益を出すために行っているものだと考えていました。しかし、ゼミでの調査を通して、生産者自身の夢をかなえるためだったり、地域や社会のためだったりと多様であることがわかり、視野が広がりました。さらには、身の回りで売っている製品に対する見方・考え方の変化に繋がったりもしました。そのような貴重な学びが得られたフィールドスタディでした！

## コミ政の学びの発展と実践

### ～学外活動に生かされる！～

所属している学外団体のイーグスの活動について、簡単に紹介します。教育系活動団体EGGS(イーグス)は2019年に、私が友人と立ち上げたNPO団体です。中高大学生と社会人の約50名が協力して運営を行っています。「参加者誰もが『何か』を得られるチャンスを提供したい」という活動目標のもと、中学2,3年生を対象とした受験指導を行っています。またそれだけにとどまらず、社会人との対話会、中学校での出張授業、職場体験等の活動も行っています。

### ——コミ政の学びとのつながりは！？

コミ政の学びの特徴の1つは、物事を考える際に、まず「人と人との関係」という視点から考え始めることだと思います。まさに、コミュニティが重視されているわけです。コミ政は行政、経済、社会、国際、哲学、福祉、政治…といった様々な分野からコミュニティにアプローチできることが強みと考えていますが、「人と人との関係」はどの分野でも大事にされている視点だと感じています。事例を分析する際に、単に理論や公式に当てはめて考えるだけでなく、利用者や対象者の視点がふまえられ、またそれが優先された検討が行われています。



イーグスの活動 向かって右側が、加藤さん





# 3年生 加藤 颯さん Kato Sou

- ・2019年1月にあらか子ども応援ネットワーク加盟団体として活動開始
- ・主に荒川区内の大学生・高校生・中学生51名が中心に活動・運営



## イーグスの活動の説明

そういった視点や考え方が、すごく生かされていると思います。イーグスの活動において、学校や行政といった公的機関や地域の方々とやり取りをするときはもちろんですが、例えば中高生の相談にのるときなどにも非常に役に立っています。大学内での学び・勉強が、いわゆる座学に収まらず、学外での活動や社会での実践へとつながり、発展していっている実感を持っています！

## 学内学会「まなびあい」の活動

### ～運営委員のメンバーとして！～

「まなびあい」はコミュニティ福祉学部（以下「コミ福」）の内部にある学会で、在学生・卒業生・先生方が寄稿する雑誌を発行したり、年に1回開催される大会（学生の発表や、卒業生とのワークショップ）を行っています。そして、その運営には先生方だけでなく、卒業生や在学生も委員としてかかわっていることが特徴的です。

私が「まなびあい」に出会ったのは1年生のとき、年に1回行われる大会に行ったときです。大会に行った理由は、実は「暇だったから何となく…」といったもので、しっかりとした理由があったわけではありません。しかし、先輩や卒業生の方々と縦のつながりを作りながら様々な話をする中で、「コミュニティ福祉学部を選んで4年間を過ごすことは間違っていないかった！」と直感・実感することができました。

### ——委員のメンバーとして！

その後、「まなびあい」の委員になり、運営にかかわるようになりました。その立場から言うと、「まなびあい」の良さは、多様な専門領域を持つ先生方や、様々なことに取り組んでいる在学生、卒業生が一同に会して1つのテーマについて話し合える環境があることだと思います。特に在学生にとっては、いま学んでいることを今後どのように活かせるのか明確にできたり、悩んでいることの答えやヒントを得られる魅力的な場となって

いるように思います。

委員として参加している身としては、コミ福の空気・雰囲気を感じることができるのが「まなびあい」大会だと思うので、在学生や地域の方々、関係者の方々にはぜひ参加して頂きたいです。よろしくお願い致します！

## 学生から見たコミ政の学び！

どんなことを学ぼうとしても、しっかりと学習できる環境があるのが、コミ政の特徴だと思います。学部名はコミュニティ福祉学部であり、したがって主に「福祉」を専門とする、あるいはそれに特化した学部のような印象を持たれますが、コミ政には様々な学問領域の先生が所属しており、学生がやりたい、知りたいと思ったことに取り組むことができる環境があると実感しています。学生の興味がある分野も多岐に渡っており、互いに話していて面白い発見がとても多いです。



まなびあい大会  
卒業生にインタビューする加藤さん

## 最後にメッセージを！

コミ政の学びは、まさに色とりどりで魅力的です。在学時だけでなく卒業後にも、心から「コミ政大好き！」と言える、思える環境が、ここには確実にあると感じています。学生たちのコミ政での成長を、どうぞ温かく見守りください！



新座キャンパスの桜



## 2019年度のコミュニティ政策学科の 学生の学びダイジェスト（１）

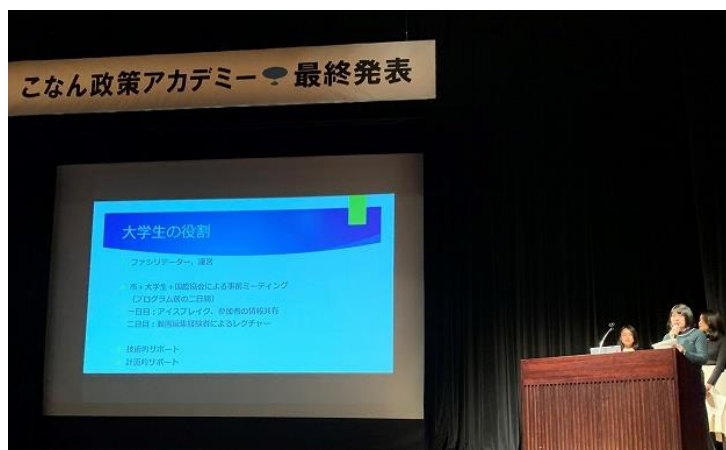
### 杉本瑞生君が全日本学生馬術大会で 個人優勝！

体育会馬術部の杉本瑞生君（現３年）が、2019年10月31日（木）～11月5日（火）に兵庫県三木ホースランドパークで開催された全日本学生馬術大会2019「第69回全日本学生賞典障害馬術競技大会」において、個人優勝を果たしました。地区大会予選を勝ち抜いた19大学54人馬が出場しましたが唯一の減点0で完全優勝しました。詳細は立教大学ホームページの「学生の活躍」を御覧ください。



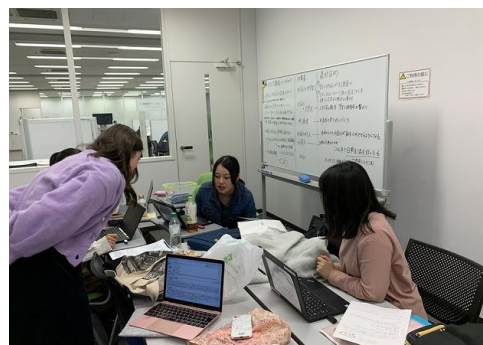
### 滋賀県湖南市への政策提言！

コミュニティスタディ（3年：原田ゼミ）では、ゼミで学んだ地方自治の視点で地域課題を捉え、その解決の道筋を学んでいます。2019年度は、滋賀県湖南市から政策形成パートナーシップ事業の委託を受け、市に対して課題解決の提案をプレゼンしました。連日おそくまで図書館に籠もって作業を重ねた努力が実り、私たちの企画が次年度の市の施策に採用されることになりました。



市幹部・市民の前で最終プレゼンしている様子

提言書締切二週間前の様子（だめ出しを受けながら図書館で閉館までねばって企画書を作成）



### 22名の学生が社会調査士の資格を取得！

2019年3月の卒業生のうち22名が、社会調査士の資格を取得しました。この資格は一般社団法人社会調査協会が認定するもので、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえる能力を有することを証明するものです。

資格取得した学生たちは、1年次から認定に必要な科目を計画的に習得し、3、4年次には集大成となる「社会調査実習」で本格的な調査に挑戦しました。調査の専門的な知識と技術は自治体、企業、NGO／NPO等、各々の職場・現場で生かされるはずです。





# 2019年度のコミュニティ政策学科の 学生の学びダイジェスト（2）



フィリピンのアンツ村にて

## 「Think Globally, Act Community: 広い視野から とらえ、足元のコミュニティで行動する」学生 秋田栞奈さん(3年)

鈴木ゼミの秋田栞奈（かな）さんは、フィリピンにあるアンツ村に約3週間滞在して、村の人々と生活を共にしながら、小中学校と高等学校での模擬授業や異文化体験等を行ってきました。この活動を支えているのは、学生団体、Philippines Relationship Club (PRC)です。帰国後、海外から来日している学生たちと共に国際ワークキャンプに参加して、長野県北部にある全児童数32名の小学校で英語を教えたり、リンゴの収穫を共有したりしています。また、この活動の一環としてイギリスのロンドンに滞在して、教育センターで環境教育を行ったり、ヨーロッパの慈善協力会社と協力してイベントの準備運営を手伝ったり等の活動にも参加しました。



小学校での英語授業

## 卒業研究発表会を開催しました！

2020年1月26日に卒業研究発表会を開催しました。大学4年間の学びの集大成となる卒業論文について、各学生から発表があり、その後、質疑を行いました。

以下、卒業論文のタイトルの一部です。

- 離島の地域再生におけるコミュニティの重要性－奄美大島と与論島の事例から－
- サードプレイスとしての図書館の可能性-「武蔵野プレイス」の事例研究-
- フィリピン人女性と次世代を担う子どもたちが日本で尊厳を持って暮らしていくために－
- 行政機関とNPO団体の良好な協働とは～さいたまコースサポートネットへのヒアリングを通じて
- 子どもの労働とフェアトレード
- 地域活性化の内実の検討～埼玉県小川町での学びから～
- 社会福祉法人の地域貢献～大阪府の事例を中心に～



## 沖縄でのゼミ合宿



焼け落ちる前に見た首里城

フィールドスタディ（木下ゼミ）では、全国で一番深刻な沖縄の貧困問題を学ぶために、琉球大学や沖縄県庁、ひめゆり平和祈念資料館等を訪問しました。私たちの生活は歴史に規定されるということを痛感しました。



## 他大学との合同ゼミ



青山学院大学での学生による  
プレゼンの様子

コミュニティスタディ（木下ゼミ）では、2019年12月に、青山学院大学、立命館大学、香川大学で合同ゼミで発表をしました。他大学の学生の発表も聞き、大変刺激的な一日になりました。





# 2019年度のコミュニティ政策学科の 学生の学びダイジェスト（3）

## フィールドでの活動を通して学ぶ地域資源を活用した地域活性化

コミュニティスタディ（3年：空閑ゼミ）では、埼玉県小川町で地域課題を資源として捉え直す活動を実施しています。たとえば、耕作放棄地を地域の方々と協力して活用する活動の他、地元のNPOおよび高等学校と協力して地域文化資源のデジタルマップを作成しました。

©「おがわ町並みマップ」 <https://ogawamachinami.wixsite.com/machinamimap>



## 現場での多様な実践からの学び



East Londonでのプラカード作りワークショップ

藤井ゼミ（コミュニティ・スタディ）では、多くの学生が、国内の若者支援や移民支援に携わるNPOや協同組合のインターンシップ、或いは、海外のイースト・ロンドン・インターンシップに参加します。そして、現場で様々な活動に参加しながら気付き学んだことを、秋学期には、学内学会であるコミュニティ福祉学会、明治大学との合同ゼミ発表会で報告し、プレゼンテーションの力も高めます。皆が現場でのリアルな経験を基盤の一つの報告を作り上げることで、最後には、とても良いチームになります。



## 沖縄での学生のプレゼン



那覇市地域包括支援センター繁多川にて

2019年9月、共同売店などの調査のためにコミュニティスタディ（北島ゼミ）で沖縄市内・島尻郡などに行ったのですが、一方的に



沖縄子育て良品@島尻郡南風原町

話を伺うのではなく、学生からも報告（被災地支援）をするようにしました。渋滞で遅刻したため、最初はなかなか打ち解けない雰囲気でしたが、学生の話には地元の地区社協の方も興味津々で、最後は学生のプレゼンの仕方にも感心されていました。コミ政の学生だから、こんなことができたんだと思います。教員として誇りも感じさせてくれた合宿でした。